## 実践団体情報

| | |
|---|---|
| 記入日 | 西暦 2023 年 1 月 20 日（2022 年度のチャレンジプラン） |
| 実践団体名 | 信州大学防災フォトロゲイニング実行委員会 |
| 代表者名 | 横山俊一 |
| プラン全体のタイトル | 地域でつくる観光防災マップ作成と活用について |
| 電話番号 | 090-7816-7935 |
| メールアドレス | yokoyama_shunichi@shinshu-u.ac.jp |
| 実践団体の説明 | 地域防災の普及を目指し、信州大学、伊那市役所、伊那市有線放送農業協同組合、上伊那広域消防本部の有志で立ち上げた団体です。設立前から地域防災に関わる活動に積極的に関わってきたメンバーが、2020 年に長野県伊那弥生ケ丘高等学校の総合学習に関わることになり、新たな地域防災の仕組みづくりのため活動を開始しました。 |
| 所属メンバー | 横山　俊一（代表）信州大学<br>小松　剛　　伊那市役所<br>菊田　文太郎　伊那市有線放送農業協同組合<br>樋代　亜希子　伊那市有線放送農業協同組合<br>藤根　正和　　上伊那広域消防本部 |
| 活動地域 | 長野県伊那市高遠地区 |
| 活動開始時期・結成時期 | 2020 年活動開始・2019 年結成 |
| 過去の活動履歴・受賞歴 | 第 3 回伊那市 LoRaWAN ハッカソン(2017 年度)にてメンバーが運営、各種課題の講師を行った。地元新聞である『長野日報』においてメンバーが中心となり、防災に関する連載を行った。 |
| プラン全体の概要 | 防災の重要性は総じて社会全体に浸透しているが、「我がこと」として具体的・実行的な取り組みは少なく、報道等で被災地の状況を知り意識する程度が実態です。このような意識を変容させるには、楽しみながら防災意識を醸成し、防災を日常生活に取り入れることが大切です。<br>本プランでは、メンバーと高校生、地域住民が協働で作成した観光防災マップをもとに、作成者と協力者の防災意識向上、新たな地域防災活動の取り組みの端緒の獲得を目指します。 |

プランの年間活動記録

| | プランの立案と調整 | 活動準備 | 実践活動 |
|---|---|---|---|
| ４月 | 授業 | 関係機関との打ち合わせ | |
| ５月 | 授業・フィールドワーク下見 | フィールドワーク資料作成 | |
| ６月 | 授業・フィールドワーク | 関係機関との打ち合わせ<br>フィールドワーク資料作成 | 学校周辺の観光資源と防災資源のフィールドワーク |
| ７月 | 授業・フィールドワーク | フィールドワーク下見<br>フィールドワーク資料作成 | 災害地フィールドワーク |
| ８月 | | 関係機関との打ち合わせ | 関係構築 |
| ９月 | 授業 | 各活動についての打ち合わせ | |
| 10 月 | 授業 | | |
| 11 月 | 授業 | ワークショップ準備 | |
| 12 月 | 授業 | | |
| １月 | 授業 | 最終発表会プレゼン準備 | |
| ２月 | 最終発表会 | | 学内の探求授業において各学年２グループに分かれ発表を実施 |
| ３月 | 高遠住民懇談会 | 懇談会準備 | 学生と住民による防災マップを仲立ちとした懇談会 |

| | | |
|---|---|---|
| プラン全体の反省点・課題・感想 | 授業の急な変更等により、時間が足りないこともあったが、複数回のフィールドワークの開催、地域組織との連携の深化など今後の実りがあった。 | |
| 今後の活動予定 | 新たな地域組織との連携をプラスにして、より進化した体制作りを目指していく。 | |

# 実践したプランの内容と成果

| | |
|---|---|
| 記入日 | 西暦 2023 年 1 月 20 日（2022 年度のチャレンジプラン） |
| 実践団体名 | 信州大学観光防災マップ活用グループ |
| 実践番号 | 1 |
| タイトル | 地域でつくる観光防災マップ |
| 実践担当者のお名前 | 横山俊一 |

| | |
|---|---|
| 実践にかかった金額 | 3 万円未満 |
| 実践の準備にかかった時間 | 1 ヶ月 |
| 実践活動を実施した日時 | 西暦 2022 年 2 月 1 日～西暦 2023 年 1 月 20 日 |
| 実践の所要時間 | 6 時間 |
| 実践の運営側で動いた人の人数 | ５人 |
| 防災教育の対象者の属性 | 高校生・地域住民・その他 |
| 防災教育の対象者の人数 | 約　　50　　人 |
| 実践を行った都道府県と市区町村 | 長野県　伊那市 |
| 実践を行った具体的な場所 | 高遠高等学校教室 |
| ★実践に必要だった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等 | 地域ガイド、1/25000 地形図、デジタルカメラ、画板、周辺地域の資料、メモの重要性 |

| | | |
|---|---|---|
| 達成目標 | 学校周辺に興味関心を持ってもらい、同じもの全員で観察し共通の認識を持つことを目的とした。観光だけではなく豪雨や地震の際の危険地点の掘り起こしや、災害時に活用できる場所や地域を考えてもらうことを想定した。 | |
| どの力を身につけようとしましたか？ | 知識・技能 | かなり |
| | 思考力・判断力・表現力 | 大いに |
| | 学びに向かう力・人間性 | かなり |

| | |
|---|---|
| 実践内容・方法 | ・目的：観光防災マップのポイント探索<br>・FW のポイント：<br>①住民が気づかないものを掘り起こし<br>⇒気が付いているけど当たり前すぎて意識しない・気づいてない<br>②住民視点<br>③調査者の視点（詳しくは収集ポイント）<br>・目標収集ポイント数：<br>①25 箇所以上<br>②写真枚数は無制限<br>・収集ポイント：<br>①災害時や日常で危険そうな箇所<br>(出口の見えないカーブ、狭い車道、道路の段差・ひび割れ、崩れそうな塀、普段水のない水路、、、)<br>②琴線にふれたもの（トマソン、崖、玄関・家屋の形状、蔵、地域猫、駐車中の馬、畑の作物、、、）<br>③災害時に役立ちそうなもの(井戸、用水路、空き地、消火栓、自動販売機、公園、、、)<br>④災害注意のしらせ（交番、カーブミラー、水防倉庫、防災倉庫、流量計、遊水地、AMeDAS、、、）<br>⑤景色の良い箇所（高台からの眺望、景観全体でかっこよい、崖の形が〇〇に見える、、、）<br>⑥住む地域と異なるもの<br>⑦ちょっとでも気になったものは収集！！<br>・収集方法：<br>①写真を撮る(複数アングルで撮っておくと後で新たな発見がある(全体、近景))<br>②地図に場所を記入（メモを地図の余白に入れておく、時間を入れると後で整理しやすい）<br>③住民がいれば挨拶して、収集できるものを積極的にリサーチしてください<br>・収集データについて<br>①後日、全員の収集データをマップにする |

| | | |
|---|---|---|
| | ②マップの地域での活用方法を考える<br> | |
| 得られた成果 | ・身近な地域にある様々な事象に興味関心を持ってもらうきっかけとなった。 | |
| どのくらい身につきましたか？ | 知識・技能 | かなり |
| | 思考力・判断力・表現力 | 大いに |
| | 学びに向かう力・人間性 | かなり |
| 課題・苦労・工夫 | 生徒が天候の良くいない日も含めて地域を何度も調査したことで、地域住民への活動の浸透ができた。さらに住民と直接やりとりしたことで、地域の学校への期待や OB との出会いから自分たちが自ら行うことの大切さを認識することができた。 | |

| ★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について | |
|---|---|
| 関係者の名前・団体名 | なし |
| 関係者の説明 | なし |
| 関係者の連絡先 | なし |

| ★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ | |
|---|---|
| 伝えたい相手 | すべての人 |
| 伝えたい内容 | フィールドでの学びは重要であるということ |